

財団法人東北活性化研究センター  
「内閣府 景気ウォッチャー調査  
平成22年7月東北分（新潟を含む東北7県）」について

財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力株取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成22年7月東北分（新潟を含む東北7県）」についてとりまとめましたのでお知らせいたします。

### 【調査結果のポイント】

#### (1) キーワード

- ・プラスのキーワード…天候（現状）、エコカー購入補助金（現状）
- ・マイナスのキーワード…デフレ・低価格（現状、先行き）、雇用情勢（現状、先行き）、エコカー購入補助金（先行き）

#### (2) 現状判断（3か月前との比較、方向性）

- ・現状判断DI「51.3」（+2.7）は、2か月連続で前月を上回り、横ばいを示す50を平成19年3月以来3年4か月ぶりに上回った。
- ・家計動向は、消費者の低価格志向や節約志向は続いているものの、エコカー購入補助金などの景気対策に加え、梅雨明け後の猛暑が消費喚起、購買意欲を促し、需要持ち直しの動きがひろがっている。DIは「51.8」（+3.5）と2か月連続の上昇で、「横ばい」を示す50を上回っている。
- ・企業動向は、企業経営は受注の低迷や価格競争の激化など厳しい状況が続いているものの、一部業種に受注や需要の回復がみられる。DIは「50.6」（+3.2）と前月からプラスに転じ、「横ばい」を示す50を上回っている。
- ・雇用動向は、一部に求人数や求人倍率改善の動きがみられるものの、中小企業で新たに雇用調整を実施する動きが出ているなど、雇用環境は厳しい状況が続いている。DIは「48.9」（▲3.5）と前月からマイナスに転じ、「横ばい」を示す50を4か月ぶりに下回っている。

#### (3) 先行き判断（3か月先の見通し、方向性）

- ・先行き判断DI「45.4（▲2.0）」は、前月を下回り、「横ばい」を示す50を3か月連続下回った。
- ・家計動向は、景気対策による消費の下支えと消費マインドの変化から、需要に持ち直しの動きがひろがっているものの、消費者の節約志向に変化がみられないなかで、先行き不透明な状況に加え、猛暑や政策効果終了の反動が懸念されている。DIは「44.0」（▲2.5）と前月から下降している。
- ・企業動向は、一部に緩やかな受注回復の兆しがみられるものの、為替動向や政策効果の終了に伴う反動が懸念されている。DIは「48.1」（+0.7）と小幅な動きにとどまっている。
- ・雇用動向は、一部で求人回復傾向がみられるものの、雇用調整など厳しい雇用環境は変わらない。DIは「48.9」（▲4.7）と前月からマイナスに転じ、4か月ぶりに「横ばい」を示す50を下回っている。

#### (4) 基調判断（7月）

##### ●今月の基調判断…東北地域の景気は「厳しいながらも、持ち直しの動きがみられる」（上方修正）

- ・消費者の節約志向や雇用環境の厳しい状況は続いている。しかし、景気対策による需要への効果に加えて、猛暑に伴い百貨店やコンビニ、家電量販店において消費マインドの回復傾向もみられ、総合的には、持ち直しの動きが続いていると判断される。

以上

#### <添付資料>

- 調査結果の概要

#### <お問い合わせ先>

財団法人 東北活性化研究センター（担当：木村）

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL:022-222-3394 FAX:022-222-3395

## 【調査結果の概要】

### 1. 今月のDI※

#### (1) 現状判断（方向性）DI

3か月前との比較である現状判断DIは、51.3（前月比+2.7ポイント）と、2か月連続で前月を上回り、横ばいを示す50を平成19年3月以来3年4か月ぶりに上回った。

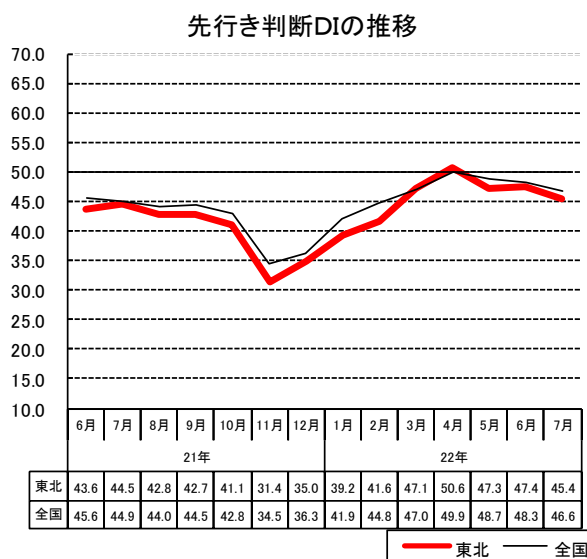
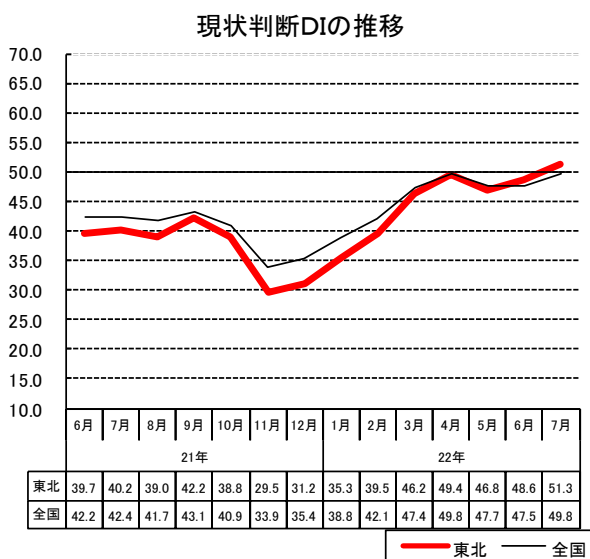
	21年							22年						
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
東北現状	39.7	40.2	39.0	42.2	38.8	29.5	31.2	35.3	39.5	46.2	49.4	46.8	48.6	51.3
家計動向関連	39.6	39.1	36.9	42.0	37.1	27.4	29.5	34.3	38.4	45.4	46.9	44.3	48.3	51.8
企業動向関連	42.1	47.0	46.3	40.9	43.1	35.3	35.0	40.6	43.9	49.4	56.9	53.1	47.4	50.6
雇用関連(参考)	35.7	34.5	38.1	46.3	41.7	32.1	35.7	32.1	37.5	45.5	51.2	51.2	52.4	48.9

#### (2) 先行き判断DI

3か月先を予想する先行き判断DIは、45.4（前月比▲2.0ポイント）と、前月を下回り、「横ばい」を示す50を3か月連続で下回った。

	21年							22年						
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
東北先行き	43.6	44.5	42.8	42.7	41.1	31.4	35.0	39.2	41.6	47.1	50.6	47.3	47.4	45.4
家計動向関連	42.4	43.1	42.3	42.5	40.4	30.9	33.6	38.3	40.3	46.5	50.4	46.3	46.5	44.0
企業動向関連	47.0	47.0	45.0	42.1	41.9	32.1	36.9	45.0	45.1	48.1	50.6	49.4	47.4	48.1
雇用関連(参考)	44.0	48.8	41.7	45.0	44.0	33.3	40.5	33.3	43.8	48.9	52.4	50.0	53.6	48.9

※DI（Diffusion Index）について…50を基準とし、50を超えると景気が良い方向にあることを示す。



景気ウォッチャーの判断によれば、東北地域の景気は、  
厳しいながらも、持ち直しの動きがみられる、とのことである。

## 2. 調査の概要

調査期間 平成 22 年 7 月 25 日～平成 22 年 7 月 31 日

回答者数 200/210 名、回答率 95.2% (全国 1,861/2,050 名、90.8%)

## 3. 特徴的と思われる判断理由 (ウォッチャーのコメントから抜粋)

### (1) 現状判断理由

#### ○「良くなっている」

(百貨店) …夏のクリアランスセールを打ち出し、盛り上がっている。担当している「大きいサイズの婦人服」は、セール開始の 7 月第 1 週は前年比 2 けたの伸びで推移し、中旬は波があったものの、最終的には前年比 103%となっている。6 月のプレセールの集客が不振に終わったものの、7 月に客数が集中し、セール開始の第 1 週、第 2 週に何度も足を運ばれる方が目立ったことや、再値下のタイミングで集客を図ったブランドの売上が全体をけん引したことなどが要因にあげられる。ただし、数字上は良く見えるがブランドによって偏りは大きい。

#### ○「やや良くなっている」

(医薬品販売店) …天候が良いため夏物商材、殺虫剤、飲料の動きが良く、来客数も増えている。

(スーパー) …梅雨明け後の猛暑により果物や飲料、アイスなどが好調で、来客数、買上点数共に伸びている。

(家電量販店) …季節商材のエアコンの動きが好調に推移している。

(乗用車販売店) …9 月で終了するエコカー購入補助金の駆け込み需要があり、新車販売を後押ししている。

(旅行代理店) …国内、海外共に団体旅行の受注が増えている。個人旅行では海外が順調な反面、国内が伸びず低調である。家族旅行が最も動く夏休みに入り、間際の受注でどれだけ回復するか、その点だけが不安材料となっている。

(電気機械器具製造業) …大手企業の受注量はかなり回復しており、その影響が関連の下請にも波及してきている。

(広告業協会) …住宅展示場の来場者が増加している。住宅設備の品定めに来る客が多く、新規戸建住宅の販売は伸びていないが、中古物件、住宅リフォーム市場は活発である。

(人材派遣会社) …製造業関連の求人数は、引き続き増加している。

#### ○「変わらない」

(スポーツ用品店) …必要最小限の購入が目立つ。

(百貨店) …夏のクリアランスセールと中元商戦の盛り上がり期待した 7 月の売上は、平年より早く梅雨明けしたこと前年より条件が良いはずなのに、予想した数値には届かない見通しである。

(スーパー) …7 月半ば以降真夏日が続き、青果関連に動きがみられるが、デフレの影響で低価格商品だけ求めている様子が見える。

(コンビニ) …猛暑の影響で、既存店ベースの売上が前年比 1.5～2%増加している一方、客単価は前年を下回る状況で推移している。

- (衣料品専門店)…猛暑により、夏物商材に動きがみられるものの、低価格商品が中心である。
- (観光型ホテル)…宿泊客の絶対数が少なく、宿泊単価を落としても客が集まらない。さらに、高温のため温泉場としての地域全体の入込も低い。館内のプールも利用者はほとんど見られない。
- (一般機械器具製造業)…自動車部品については、国内需要、輸出共に好調で推移している。
- (建設業)…経済や生活への不安から、新築工事を見送り、リフォーム工事を選ぶ客が依然として多い。
- (広告代理店)…厳しい価格競争が続いており、物件減少と価格の低下に歯止めがかからない。
- (新聞社〔求人広告〕)…採用意欲が活発な業種は依然として少なく、直接雇用による採用はほとんどない状況である。
- (職業安定所)…休業などの雇用調整を実施する企業の規模は、前年度比で減少しているものの、中小企業が新たに雇用調整を実施する動きが出ている。

### ○「やや悪くなっている」

- (スーパー)…夏のボーナスが出なかったことや猛暑の影響により、客の購買力が減退し、買上金額が大幅に減っている。
- (都市型ホテル)…梅雨明け後、屋上ビヤガーデンの来客数が増加し、7月としては過去最高を記録しているが、好調に集客できたのはこの部門だけで、館内レストラン及び宿泊は厳しさを増している。
- (農林水産業)…夏に出回る農産物の価格低迷が著しい。

### ○「悪くなっている」

- (一般レストラン)…販売量が減少しているのに加え、来客数も落ち込んでいる。特にランチ客が激減している。
- (人材派遣会社)…労働者派遣法の改正を見越したユーザー企業による契約の中途解除が続いている。

## (2) 先行き判断理由

### ○「やや良くなる」

- (百貨店)…必要なもの以外の購買には慎重な姿勢が続くと思われるが、宝飾、時計などの高額品に若干動きが出てきており、景気回復の兆しがみられる。
- (スーパー)…梅雨明け後の好調な動きが10日近く続いており、このままで推移していくことが期待される。
- (衣料品専門店)…礼服など比較的高額な商品に客が戻ってきており、来客数の動きをみても、個人消費が少しずつ上向いていることから、季節要因などが例年どおりで、新作を用意するなど仕掛けをしっかりとすれば、落ち込むことはない予想される。
- (家電量販店)…エコポイントの年末終了を前に、かなりの駆け込み需要が期待される。
- (都市型ホテル)…新幹線の延伸開業による経済効果や、高速道路無料化実験開始による観光客の増加が期待される。
- (電気機械器具製造業)…受注量の動きからは、やや良くなることが予想されるが、利益率の低下は著しく、楽観はできない状況が続く。

(広告業協会) …テレビスポットや新聞折込の回復、新聞広告の下げ止まりなど、広告業界にも明るい兆しがみえている。

(人材派遣会社) …住宅や不動産関係で、しばらく中止していた採用活動を再開させる動きがみられ、雇用環境の改善が期待される。

(新聞社 [求人広告]) …自動車関連の組み立て工場の本格稼働に伴い、求人数の増加が期待される。

## ○「変わらない」

(百貨店) …婦人衣料は秋物が早々と立ち上がっているが、暑いせい動きは今一つである。この先も例年より気温の高い日が続くことが予想されるが、秋物の動きに影響が出る懸念される。

(スーパー) …今後、気温、気候が平年並みで安定すれば、景気がやや良くなっている夏商戦の流れが秋冬商戦にもつながっていくと期待される。

(コンビニ) …1年や半年前の水準と比較すると底は脱しており、明るい材料といえる。ただし、単価の水準が依然として前年を下回っているのに加え、建設業の不況が深刻でこれらの客足が減っていることから、建設業の景気回復に目処が立つまでは厳しい状況が続く。

(家電量販店) …季節商材以外の部門については、売上が前年比を割り込んでおり、販売台数は増えているものの単価が下がっているため、厳しい状況は続く。

(出版・印刷・同関連産業) …取引先は各社とも経費削減策を継続している。宣伝広告費も削減したままの状態が続く。

(土石製品製造販売) …東北の建設業界は、全体的に発注工事が減少しつつあり、ここ2、3か月の間、景気が回復する要因は見当たらない。

(職業安定所) …新規求人数は前年比5か月連続で増加しているものの、伸び率の鈍化傾向は続く。また、有効求職者数は高止まりで推移する。

## ○「やや悪くなる」

(コンビニ) …猛暑の影響による売上改善は一時的なものであり、現状の客単価の推移を考えると、2～3か月後は売上の落ち込みが懸念される。

(衣料品専門店) …3か月予報では9月まで残暑が続く見通しで、秋物商戦への影響が懸念される。

(一般機械器具製造業) …下期は自動車部品の国内需要の大幅な減少と急激な為替の動きから、業績の悪化が懸念される。

## ○「悪くなる」

(乗用車販売店) …当初の予想を上回る駆け込み需要の反動から、エコカー購入補助金が終了する9月末以降は30～40%減と、リーマンショック直後の水準に逆戻りすることが予想される。

(人材派遣会社) …上半期の9月を期限とした派遣契約打ち切りが増加する。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上